

平成19年 5月20日

砺波医師会誌

杏和だより

第188号

◇◇◇ 目 次 ◇◇◇

〔甲 辞〕・井村和男君へ	桐澤 奨二	2
〔時 評〕・能登半島の地震について	杉本 立甫	3
〔砺波医師会役員〕		4
〔活動報告〕		5
〔花 暦〕・日照り雨	桐澤しょう二	8
〔散居村〕・よいやさ! よいやさ!	河合 晃充	9
・日々雑感	絹谷 啓子	10
〔新入会員紹介〕	あおい病院 五十嵐保史	11
.....	となみ三輪病院 林 次郎	12
・「庄川の風」	おおた内科クリニック 太田 英樹	13
〔婦人部だより〕・奥琵琶湖の桜	高橋 睦美	14
〔編集後記〕	柳下 肇	15

発行所 砺波市幸町 6 番 4 号

砺波医師会

発行人 砺波医師会長 高橋 卓朗

井村 和男 君へ

聴力の不自由になった君を何回訪れたことであろうか。

無理をしてでも会話を聞こう、理解しようとする姿が何とも痛々しく、悲しくて、敢て訪問を躊躇することも、しばしばであった。

然し、今こうして筆を執ると、ありし日の事どもが、つぎつぎと思い出され万感、胸に迫るを如何ともなしえない。

しばらく前までは、何とか合図をすれば、何とか応える君であった。しかし私はいま、君に悲しいお別れの言葉を捧げる。君のなごやかな声、君の真摯なまなざし、あらゆるものを私の心に焼き付けて、君は遠く旅立って行った。

君の心の大きさは、友達を大切にすることであった。君のような友を持ちえたことを私は大きな喜びに思う。

きしくも、砺波市医師会には大正生まれ同年齢の、しかも、あの戦火の下、不思議に命長らえた仲間が3人いた。よく揃って、遠出をし、白球を追い、よく遊び、よく学び、世相を論じ、悲憤慷慨、よく酔っ払って、時には君のご自慢の孝行息子の和清君までにも世話になった。そして、その和清君との悲しい別れなど、いろいろのことどもが浮かび上がって、思い出は尽きそうもない。

小児科医の君は、いち早く学校医として児童の健康に取り組み、その成果のすばらしさは砺波市学校保健会長表彰、市長表彰、県知事表彰、紺綬褒章、文部大臣表彰、特に十全会誌の「北陸乳幼児側面観」が如実にそれを物語っている。

今ごろは亡き奥様や和清君等に迎えられて、つもる話のつづいていることであろう。

井村 和男君よ、永い間、本当に有難う、ご苦労様でした、安らかに 眠りたまえ。
さようなら

能登山に雪美しく積りいし しょう二

桐澤 奨二

能登半島の地震について

市立砺波総合病院

院長 杉 本 立 甫

3月25日の地震では、家に居て地震の揺れを体験しましたが、私が今まで経験したなかでは一番大きい揺れでした。ただ、被害状況はテレビの画面上はそんなにひどいとは思いませんでしたが、実際家は建っていても使い物にならない家が多数あるように思います。今回の地震の場合、人的被害が少ないのがなによりでした。

今回の地震にあい、平成7年1月31日から5日間阪神淡路大震災後の神戸で医療活動を行ったことを思い出しました。

砺波を出発してから神戸、西灘保育所に着くまで車で約16時間かかったこと。テレビの画面で見るとは大違いの街の惨状、避難所の様子、余震があったときの住民の驚き方などを思い出しましたが、砺波に帰ってから“自分が生きている間にこれだけの地震にはもう遭わないであろう”と思いました。

しかしその後も山古志村、玄界島など日本中で大きな地震が発生しています。幸い都市部でなく人口密度の低いところが多かったので死者、けが人とも少ないのですが、これが都市部で発生したと思うと…

今回の地震に対しての医療活動は非常に早くから被災地に入っていた医療班もありましたが、当院へは看護師の派遣要請があっただけです。

今後もいろんな型の派遣要請があるかと思いますが、それに対応できるよう準備しておかなくてはと思っている昨今です。



砺波医師会役員

(平成19年4月1日～20年3月31日)

役職名	氏名	担 当 業 務	
		砺波医師会	富山県医師会
会 長	高橋 卓朗	総括	
		医師会100周年記念誌編集委員長	
副 会 長	山本 郁夫	副総括	地域保健・健康教育
		砺波医療圏急患センター所長	介護保険
理 事	大橋 雅廣	地域保健	社会保険
			勤務医
同	山下 直宏	学術・生涯教育	学術・生涯教育
同	杉下 尚康	庶務・会計、記録	医療安全対策
同	金井 正信	医師会費検討	医療経済
同	藤井 正則	産業保健	産業保健
			健康スポーツ
			環境保健
同	坂下 泰雄	救急医療	乳幼児・学校保健
			学校心臓検診
同	福井 靖人	広報	広報
			医療情報システム
			障害者福祉医療
監 事	広野 隆		
同	柳下 肇		救急医療

砺波医師会顧問

裁定委員

議 長	永井 忠之	柴田 道也	大沢 真夫
副 議 長	仲村 洋一	平川 秋彦	吉田 武雄
		河合 康守	福井 悟

富山県医師会代議員	高橋 卓朗・山本 郁夫
富山県医師会予備代議員	杉下 尚康・金井 正信
富山県医師国民健康保険組合理事	山本 郁夫
富山県医師信用組合理事	金井 正信
富山県医師信用組合監事	永井 忠之
富山県医師協同組合常務理事	杉下 尚康

活動報告

(平成18年11月～平成19年4月まで)

平成18年11月

- 13日 定例理事会
- 15日 第1回(仮称)砺波医療圏急患センター開設準備会
- 20日 第15回砺波胸部疾患検討会
- 28日 学術講演会 「頸動脈病変と脳卒中」
石川県立中央病院脳神経外科部長 宗本 滋

平成18年12月

- 1日 砺波厚生センター地域・職域連携推進協議会
- 11日 定例理事会
- 19日 小矢部市・砺波市・南砺市医師会合同学術講演会
「機能性ディスペプシアの病態と治療」
富山大学医学薬学研究部内科学第三講座教授 杉山 敏郎
- 25日 第2回(仮称)砺波医療圏急患センター開設準備会
- 27日 四産保事務連絡会

平成19年1月

- 9日 定例理事会
介護保険委員会(県医)
- 15日 第16回砺波胸部疾患検討会
- 17日 学校心臓検診委員会(県医)
- 23日 学術講演会
「日本人のこれからの高血圧治療戦略～CASE-Jからのメッセージ～」
市立砺波総合病院内科部長 佐藤 重彦
産業保健小委員会(県医)
- 27日 平成19年度砺波准看護学院入学試験
- 29日 富山県医師連盟執行委員会

平成19年2月

- 1日 砺波准看護学院運営理事会
地域保健・健康教育委員会（県医）
- 2日 内科系一次急患センター説明会
勤務医委員会（県医）
- 6日 小児急患センタースタッフ会議
- 9日 学術・生涯教育委員会（県医）
- 13日 定例理事会
- 15日 砺波商工会議所・富山産業保健推進センター・砺波地域産業保健センター
健康講話と事業説明会
- 16日 介護保険一主治医研修会
「本県の介護保険の施行状況等について」
県高齢福祉課介護保険班主任 浅岡 幸信
「主治医意見書記入の手引き及び特定疾患に係る診断基準について」
県高齢福祉課介護保険班主任 浅岡 幸信
「主治医意見書記載上の留意点」
砺波地方介護保険組合認定審査会会長 山本 郁夫
「障害者自立支援法に係る主治医意見書について」
県障害福祉課自立支援係主任 野畑美千子
県身体障害者更生相談所主任 中川 寛淑
- 19日 第17回砺波胸部疾患検討会
- 21日 砺波医療圏医師会協議会
- 26日 砺波地域産業保健センター小委員会
- 27日 学術講演会 「腎移植に関する最近の話題」
金沢医科大学腎機能治療学教授 横山 仁

平成19年3月

- 1日 砺波准看護学院卒業式
第2回内科系一次急患センター説明会
- 2日 県・郡市医師会協議会

- 7日 第2回砺波地域産業保健センター運営協議会
- 8日 急患センター運営小委員会
- 9日 産業保健委員会（県医）
- 12日 定例理事会
- 16日 結核予防医師研修会
「結核の現状について」 砺波厚生センター所長 横川 博
「改正感染症法と今後の結核対策」
社団法人結核予防会結核研究所 副所長 加藤 誠也
- 19日 第18回砺波胸部疾患検討会
- 22日 急患センター事前打ち合わせ会
- 25日 平成19年度定例総会
学術講演会
「糖尿病における高血圧治療～ARB利尿薬合剤による降圧と臓器保護効果について～」 黒部市民病院内科医長 家城 恭彦
- 27日 社会保険委員会（県医）
- 29日 代議員会
富山県医療審議会

平成19年4月

- 5日 砺波准看護学院入学式
- 9日 定例理事会
- 10日 砺波准看護学院運営理事会
- 16日 第19回砺波胸部疾患検討会
- 19日 広報委員会（県医）
- 20日 参議院議員 武見敬三激励会
- 23日 急患センター運営審議会小委員会
広報委員会
- 24日 学術講演会 「認知症、早期診断と治療」
独立行政法人 国立病院機構医王病院特命副院長 駒井 清暢

老人科

老人科けふも聴き役日照り雨
 惑星の減りてもこんな星月夜
 仙骨岬ドライバー振る老人の日
 同級会饒舌老いず夜の長さ
 一病を息災として梅雨明ける



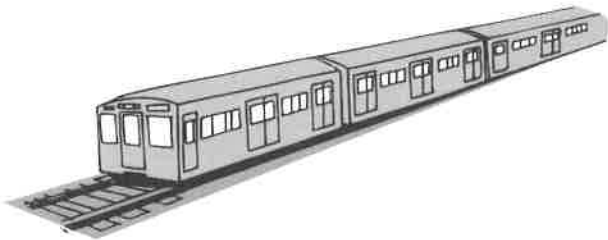
万代橋

八十五年真っ直ぐ万代橋の秋
 新装の母校高きに上りけり
 散る柳西堰は消え人は居ず
 なにはとも心づくしの栗のめし
 宝生もバレーも遠し秋の晴

赤マンマ

(奥能登線廃止)

赤マンマ脛のうらと汽車走る
 赤マンマ昔をつなぐ線路跡
 赤マンマ還らぬ人の幼な顔
 赤マンマ暮れるに早き能登山河
 赤マンマ沢山咲いてなほ淋し



冬 怒 涛

立山を窓に置きたる恵方かな
 奥能登もここまで止り冬怒涛
 能登言葉だけの話よ屠蘇の酔
 越中風能登風御節老二人
 屠蘇の酔医師も漁師もなかりけり

寒 紅

雪囲い男結びとは言いたれど
 寒紅に数への齢ありにけり
 寒卵患見は乳房歪と抱き
 素麺于す伸ばして曲げて老の腰
 診察衣糊バリバリと春なりし

遠 雪 崩

古女房いるそれだけの冬ぬくし
 遠雪崩世に産科医は減りつづけ
 北国に雪なき日々よ神仏
 女性医師男性医師も年の豆
 老い二人大きな家に春立ちし

よいやさ！ よいやさ！

河合耳鼻咽喉科医院

河 合 晃 充

6月の第2金・土曜日は砺波夜高祭りです。この原稿を書いているのは4月ですからまだ2ヶ月近くあるわけですが、もう製作に入っている町内もいくつかあるようです。もちろん、各町内を挙げて製作をするのですが、実質はどこも若い衆が作っているようです。

いくつかの常会がまとまって大所帯で大行燈を製作しているところもあり、かたや私が所属(?)する木舟町などは約40数軒しか家がなく、製作に携わる若い衆は実質10名ちょっと。この人数で大行燈をつくって、祭り当日は世帯数300軒を超えるであろう相手と突き合わせをしようということですから、数だけでいうと不公平極まりないのですがそこは祭りであってスポーツ競技ではありませんから数あわせなどは当然ありません。そこは個々の気合い(?)で埋めるわけですが、当町などは様々な方の協力で成り立っています。祭り当日のみの協力も、当町の統制をきちんと守って頂けることが最低条件の上で当然ありますが、基本的に来るものは拒まずの姿勢で、楽しく、けがなく、事故なくをモットーに進めているためか製作にも結構顔を出してくれる人がおり、年々増えています。当然、即手伝ってもらいます。遠慮なしです。自分が少しでも手をかけた行燈ができるわけですから当日のみの参加よりも当町の大行燈への思い入れが深くなり、さらに夜高祭りの泥沼(?)に巻き込まれていくといった事になるわけです。賛否あるでしょうが、町中の人口が減少傾向にある昨今、祭りを維持し、さらに発展を考えると、このようなやり方もありかなと思います。とはいえ、少人数で作ることには変わりなく、製作開始から祭り当日まで毎日夜遅くまでの製作が続きます。まさに約2ヶ月間の祭りと言ったところでしょう(実際、ほとんど毎晩のように多少はお酒も入ります)。歳と共になかなかつらくなってきますが、祭り当日のみならずその後も1ヶ月近くどっぷり夜高バージョンにつかってしまう我が子のように、自慢げにわが町の大行燈をみつめる子供たちのために、また大人たちも祭り当日楽しく遊べるために、頑張って製作をしなければといったところでしょうか。

祭り当日は、金曜日の大行燈が一斉に並ぶ審査、土曜日の各町内の意地のぶつかり合いの突き合わせなど見所満載です。さあ今年も頑張っていきましょう。よいやさ！よいやさ！

日々雑感

市立砺波総合病院 核医学科

絹谷啓子

伊丹で生まれ宝塚で電車ごっこ、札幌を皮切りに岡山、川崎の小学校に通って土浦で中学と高校に進学した。高2で名古屋に転校して校風になじめず性格が暗くなって一浪、金沢の大学に進学後も住居を転々として現在までに18回の引っ越しをした。

いわゆる転校生。卒業時の名簿には名前が残らない。同窓会の誘いも来ない。これまでは気にしていなかったが、大学の同級生だった氷見育ちのつれあいが小中高の同級生との交流をひょんなことから再開して嬉しそうに帰省するようになって、羨ましくなった。

金沢育ちの18才の息子にぼやいても相手にされず無視されたので、高知生まれの10才半のコーギーの老犬にぼやく。彼は親兄弟と音信不通だが気にならないらしい。

失われた同級生との交遊を嘆くより新しい知り合いの獲得をめざして、最近では近所の子ども達との交流に励んでいる。休日の犬の散歩に子ども達が犬をさわりたいくて連いてくるだけであるが。子どもから「ディンキー（犬の名前）のお母さん」と呼ばれる私。「明日遊べる？」と質問された時は驚いたが嬉しかった。あれ？もしかして誘われたのは犬だったのかな。

つかの間の会話を楽しませてくれるこの子達も巣立っていく。愚息もこの春京都に旅立つ。老犬との別れもおそらくもうすぐであろう。しみじみとさびしい。



新入会員紹介

あおい病院

五十嵐 保 史

今年1月9日より、あおい病院で勤める事となりました五十嵐保史と申します。僕の専門として内科の中で糖尿病の加療を行っております。自身も10数年前に1型糖尿病（劇症型）となり、以後自分と同じ疾患で悩んでいる方の治療がしたいと思うようになり、いつの間にか、この専門分野に入っておりました。まだ医者になり十数年とまだまだ未熟であり、現在も勉強途中にあります。患者様の方がはるかに年配であり患者様からみれば孫の年とほぼ同じ年の若造が何を言っているのかと思います。けれども診察を重ねる度に次第にうちとけて、いろいろなお話しをして下さると少しほっとした気持ちになります。信頼にこたえられるように日々勉強しなければなりません、なかなか思ったようにはいかないのが現実です。反省する毎日を送っております。

最近の糖尿病治療としまして、早期にインスリン導入を行い早目に疲弊した膵臓を休ませてあげ、自己インスリン分泌が回復してきたところでインスリン注射を中止して内服薬へ切り替えるといった治療が行われております。しかしながら現実的には、治療対象年齢が60歳以上であり、インスリン注射に対する偏見、恐さ、わずらわしさがああり導入する際に苦慮致します。ただ僕の予想に反して、70歳以上の高齢の方がインスリン導入に対して前向きで且つ積極的に取り組まれる患者様が多く、こちらの方がビックリするくらいです。その反対に50歳以上70歳未満の方は、しっかりした理解力や実行力があるにもかかわらず、インスリン導入に対して抵抗難色を示される傾向があります。おそらくその年代の方は、仕事も充実し特に症状もない病気に対してなぜそこまでしなくてはいけないのか、まだそれ程悪くないから導入しなくても何とかなると考えておられる方が多いのかもしれませんが。僕はできるだけ本人が納得されるまで導入致しませんが、気の短い小生にとってはつらい日々が続きます。今後共宜しくお願い致します。



となみ三輪病院

林 次 郎

兵庫県神戸市にて高校生活まで過ごし、愛知県・兵庫県にて消化器内科として精進してまいりました。今回、縁あって今まで訪れたこともなかった北陸富山という地に足を踏み入れることとなり、一番危惧していた雪も、今年は暖冬のお蔭で悩まされることもなく、ほっとしているところです。

幼少時より野球が大好きで、現在でも阪神タイガースに一喜一憂させられている毎日ですが、富山にもサンダーバズという球団が始動したという話を聞き、非常に楽しみにしております。

今回着任してきた病院は、療養病床のみで構成されております。以前神戸で赴任していた病院は、急性期・慢性期の混合病床でありましたが、医療と介護の狭間で医療スタッフも家族も悩まされる症例が何件もありました。現在高齢化社会が進んでいっていますが、社会はそれに気づきながらも、政策はやはり遅れがちで、私達医療関係者も翻弄されているように思います。いつも私が心に置いていることは、自分の家族だったらどうしてあげるだろう、というところに戻って診療を行っていく、ということです。今後まだまだ社会の流れは変わっていくと思いますが、目先の変化に惑わされることなく、医者としてできることを模索していきたいと思います。

他病院の先生方にもお世話になることが多いかと思いますが、今後ともよろしく願いいたします。



「庄川の風」

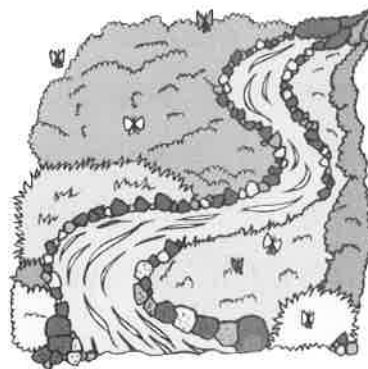
おおた内科クリニック

太田英樹

開業して2ヶ月たった頃、地鳴りのような風の音に目が覚めました。強烈な雨風が道路を吹き抜け、植木鉢はすべて倒れ、立っているのもやっとでした。まるで台風のような風の強さにびっくりしました。小学生の娘が強風で閉まったドアに足を挟まれ、泣いて帰ってきました。庄川では春先に山から吹き降ろす突風が吹くとのことですが、近所の方に聞くと、「まだ、大したことないですよ」との答えにまたびっくりしました。以前、強風でトラックが何台もひっくり返ったことがあるそうです。

子供たちは庄川での生活に慣れてきたようです。友達もできて、プールや公園に行ったりして遊んでいます。大人のように先入観もなく、スムーズに生活の変化を受け入れ、順応しているようです。一方、私の方は、日々の診療を通して、自分の至らなさを思い知らされ、精進の必要性を痛感しています。スタッフや女房の協力により、何とかやっているという状況です。

開院に際しては、多くの方々にお世話になりました。心から感謝し御礼申し上げます。以前からお世話になっている先生からは、「医療環境の厳しさが増す中、敢えてリスクを取って開業する男意気に拍手する」というお手紙をいただきました。また、絵を下された先輩は、「水路の絵で、庄川の雰囲気合うだろう」「ただ、絵の上下を間違わないように」とのことでした。その絵は医院の診察室に飾らせていただきました。私は男意気があるわけでもなく、ぐうたらな自分ですが、これからは庄川の風に慣れ親しみ、地域医療に少しでも貢献できればと祈っています。今後とも何卒、よろしくお願い申し上げます。



奥琵琶湖の桜

杏和会婦人部

高橋 睦 美

2007年度杏和会婦人部の幹事は、藤井羊子様、浩子様と私、高橋です。気温も春に近づく3月1日、3人で相談。今年の桜情報も収集し、3月後半には関西方面は開花とあり、運が良ければ桜も見られるかも、と3月27日に期日を決定。計画をたてました。行程は、奥琵琶湖畔のドライブ（桜並木が凄い!!）比叡山頂のロテル・ド・比叡でのお食事、と決め、皆様にご案内を送りました。

ところが、3月の9日あたりから寒波の襲来。下見の3月13日には吹雪きにはなる、大変な状況となったのです。ただ、この日、湖畔の桜はうっすらとピンク色に芽吹き、期日迄2週間有る事で私達に一縷の望みを抱かせてくれました。

さて、当日、出席者は、33名の会員の内、10人とため息がでるほど、少人数でしたし、寒波もその後、日本上空に居座り桜前線は大幅に（琵琶湖畔は）遅れ、幹事と致しましては、ぜひとも、皆様にご覧戴きたかった数キロにも及ぶ桜のトンネルは儂い夢となりました。それでも、ホテルでの眼下の夜景を眺めながらのディナーはホテル側の演出、サービスとも加わり献立、お味もそして用意されたワインも皆様には、お喜び頂けましたようで、幹事一同、ホッとした次第でした。

ここ、数年、この集まりは一時の盛況？とは様変わりし幹事に当たった会員は相当苦勞をされている状況です。原因は、新会員の増加と会員の高齢化？でしょうか。若い世代の会員の皆様は育児真最中。加えてジェネレーションギャップかなと感じています。私にも覚えがありますので理解はできますが、先輩方のお話を伺っていると様々な知識が得られ、親睦が深まります。砺波の出身ではない私にはとても楽しい会なのです。

この集まりは、故水木長子様の発案と伺っています。奥様方の親睦をはかる事により、より先生方の親密さも深まり医師会の運営もスムーズに行えるのではないのでしょうか!!？
なにはともあれ、若い会員の皆様、ぜひ、一度参加して見て下さい。楽しいですよ。

砺波医師会誌 第188号

編集後記

3月の能登沖地震は災害が身近にあるものだという事をつくづく再認識させられるものとなりました。私の医局同期が穴水町で開業しており、震災時、震災直後の事情を聞き、診療スタイルをどうするのか、医院のハードの維持や日ごろのメンテナンス、地域の病院との連絡体制など、漠然と思いをはせております。少しずつでも自分で出来る事をやっておかなければという思いで少しずつ準備を始めました。いずれにしてもコストがかかる事が多いのでお金のかからないものからと言うところですが（笑）。先日、うちの地域で突然の停電があり、電気が止まっただけなのに停電が復旧するまで医院の業務が完全に止まってしまいました。電気が無くなっただけでこのていたらしくですから、本格災害の時にはどうなるのやらと背筋がぞっとしました。「もしも」は常に考えておかなければいけないのでしょうか。

県医師会でも災害時を想定し、各医師会との連絡網の整備をするために各医師会に緊急連絡用のPHS（災害時にはPHSが一番安定して通話できるそうです）を配り、連絡訓練がありました。医師会も少しずつ災害時の備えに動いているようです。みなさまはいかがですか？

柳下 肇 記

〔広報委員〕 家接 健一、藤井 正則、柳下 肇、福井 靖人

